

斑点米カメムシ類の水田内への侵入量が多い ～出穂期24日後頃の防除を確実に行ってください～

1. 病虫害名：斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）
2. 発生作物：水稲
3. 発生地域：全県
4. 発生時期：－
5. 発生量：多い

6. 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

- (1) 8月1～2半旬の抽出ほ場調査（県内80地点）における斑点米カメムシ類の水田内すくい取り数（20回振り）は平均8.1頭（平成1.8頭）で多く、発生地点率は47.5%（平成38.3%）でやや高かった（図-1、表-1）。種別に見ると、アカスジカスミカメが1地点当たりすくい取り虫数の大部分を占めた（表-1）。特に、水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草（以下、水田内雑草という）が発生しているほ場でアカスジカスミカメの発生が多かった（表-2）。
- (2) 8月15日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。
- (3) 以上のことから、水田内雑草が発生しているほ場では、アカスジカスミカメの発生量が多く推移すると予想され、斑点米被害に注意する必要がある。

7. 防除対策

斑点米は、登熟期後半に発生する割れ粃の影響により側部加害が主体となる。そのため、1回目の防除が適期に行われなかったほ場、水田内雑草があるほ場、牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場、及び現在水田内に斑点米カメムシ類の発生が認められるほ場等では、以下の防除対策を徹底する。

- (1) 出穂期24日後頃（8月2日の出穂期で8月26日頃）に、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布剤を散布する。
- (2) 茎葉散布剤はエクシード剤（使用時期は収穫7日前まで）又はキラップ剤（使用時期は収穫14日前まで）とする。
- (3) 法面や休耕田等の雑草地の草刈りは、稲の収穫2週間前以降に行う。

8. その他

- (1) 水田内にあるノビエが現在出穂していないほ場でも、8月下旬までに収穫する場合は2回防除が必要となるので注意する。
- (2) 殺虫剤を散布する際には養蜂業者等と連携をとり、蜜蜂等への危害防止に努める。
- (3) 蜂場（巣箱を置く場所）が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるため、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時）の農薬散布を避け、できるだけ早朝又は夕刻に散布する。

9. 資料

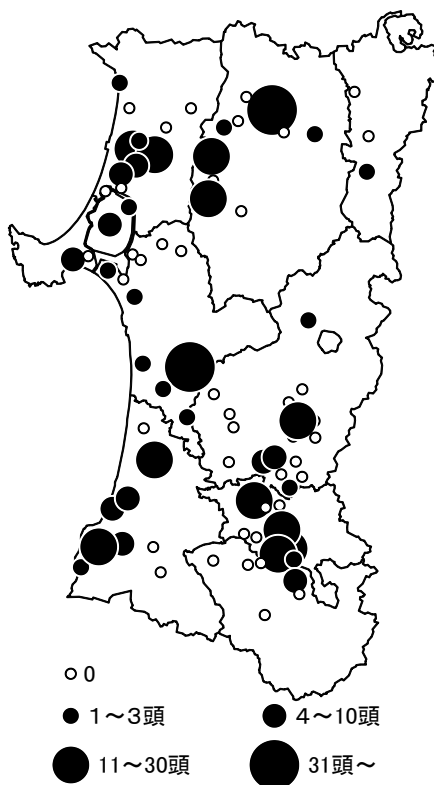


図-1 水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数
(8月1～2半旬、20回振り)

表-1 水田内における斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月1～2半旬)

	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
令和元年	8.1	47.5	6.4	28.8	1.7	33.8
平年	1.8	38.3	1.2	23.5	0.5	20.5
概評	多	やや高	多	やや高	多	高

※すくい取りは20回振りで行った

表-2 水田内雑草の発生状況別すくい取り数(8月1～2半旬)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況 別地点率(%)	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
1本/㎡以上	15	24.9	3.4
1本/㎡未満	21	3.4	0.3
発生無し	44	1.0	1.6

※すくい取りは20回振りで行った

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>